

November 11, 2020

【前日の為替概況】ドル円 小反落、ポンドドルは底堅い動きが続く

10日のニューヨーク外国為替市場でドル円は小反落。終値は105.30円と前営業日NY終値(105.38円)と比べて8銭程度のドル安水準だった。新型コロナウイルスのワクチン開発を巡る楽観的な見方を背景に、20時過ぎに一時105.49円と日通し高値を付けたものの、一目均衡表雲の上限105.53円や前日の高値105.65円がレジスタンスとして意識されると105.16円付近まで上値を切り下げた。その後は新規材料難から様子見ムードが強まり、105円台前半でのみ合いに終始した。

米大統領選で勝利を確実にした民主党のバイデン前副大統領はこの日、英・仏・独など欧州各国首脳と相次いで電話会談を行い、主要問題での連携を確認した。また、同氏は「人々に経済対策は今必要」「感謝祭前の一部閣僚の発表を望む」との考えを示したが、相場の反応は限られた。

ユーロドルはほぼ横ばい。終値は1.1815ドルと前営業日NY終値(1.1813ドル)と比べて0.0002ドル程度のユーロ高水準だった。「欧州連合(EU)は1.8兆ユーロ規模の予算と景気刺激策のための取りまとめに向けて前進」との報道を受けて一時1.1834ドル付近まで強含む場面もあったが、反応は一時的だった。その後は新規材料難から様子見姿勢が強まり、1.18ドル台前半での狭いレンジ取引に終始した。

ユーロ円は3営業日ぶりに小反落。終値は124.41円と前営業日NY終値(124.47円)と比べて6銭程度のユーロ安水準となった。ただ、NY市場に限れば124円台前半から半ばでのみ合いに終始した。

ポンドドルは底堅い動きだった。新型コロナワクチンの早期普及への期待から投資家のリスク選好意欲が強まり、ドルを売ってポンドを買う動きが活発になった。英国とEUの貿易交渉で妥結が近いとの期待もポンド買いを促し、24時過ぎに一時1.3278ドルと9月7日以来約2カ月ぶりの高値を付けた。その後の下押しも1.3215ドル付近にとどまった。ポンド円もポンドドルと似た動きとなり、一時139.78円と9月8日以来2カ月ぶりの高値を更新した。

【本日の東京為替見通し】トランプ氏の徹底抗戦は大きなリスク、本日はNZドルに注目

本日のドル円も方向感が出にくい相場になりそう。新型コロナウイルス感染拡大で起こった株安によるリスクオフのドル買い(反対に株高はリスクオンのドル売り)から変わる可能性もあり、為替市場は様子を見極めるステージの中にある。東京市場でそのどちらかを決めることは難しく、本日の東京時間のドル円はフローに振らされる展開だけになるだろう。

米大統領選挙が終わり1週間を経過したが、バイデン氏勝利がほぼ確定したご祝儀相場は落ち着くだけでなく、どうやら敗北を受け止めることがないトランプ現大統領の徹底抗戦が不安要素として今後の金融市場の重しとなりそう。

ポンペオ米務長官が2期目の準備をしていると昨晚報道されたが、米国からのニュースではトランプ氏が2月からの予算編成を行うように指示し、政権メンバーにはバイデン氏に協力を拒否するよう伝えていたと報じられた。また、同時にトランプ氏の意向に沿わなかったエスパー国防長官を解雇したが、トランプ氏が指名したCIA長官、FBI長官もそれぞれ解雇の噂が後を絶たない。米国防省のアンダーソン副次官は、辞任の理由は明言していないが国防長官解任後すぐに辞任を発表するなど、米国の内政・国防などが大混乱に陥っている。

今後さらに混迷を深めるようだと、就任直後に政策を実行する新大統領の行動が大幅に遅延することになりそう。当然のようにこの政策進行の遅延は米国内の経済対策も関わり、金融市場にも大きな痛手を与えることになるだろう。このままだと、トランプ氏の抵抗を軽く考えていた市場も、株式市場及び為替市場にも大きなリスクとなりそう。

本日は、ドル円以外ではNZドルに注目が集まる。日本時間の10時にニュージーランド準備銀行(RBNZ)が金融政策委員会(MPC)後に政策金利を発表する。現時点では据え置き予想となっているが、オアRBNZ総裁は10月20日の講演で「11月に政策手段を更新する」「量的緩和プログラムには十分な余地がある」とも発言していることで、その後に開かれる総裁の会見を含め注目される。NZ自体はウイルスを見事に抑え、政治的にも先月の総選挙でアーダーンNZ首相が率いる労働党が単独過半数を獲得するなど明るい話題が多い。もし、オアRBNZ総裁が利下げに対して以前より弱い発言が目立った場合は、NZドルが買われやすいだろう。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 10月マネーストックM2（予想：前年比9.1%）

<海外>

○07:00 ◎ ブレイナード米連邦準備理事会（FRB）理事、講演

○08:30 ◇ 11月豪ウエストパック消費者信頼感指数

○10:00 ☆ ニュージーランド準備銀行（RBNZ）、政策金利発表（予想：0.25%で据え置き）

○11:00 ◎ オア RBNZ 総裁、記者会見

○16:00 ◇ 9月トルコ経常収支（予想：27.0億ドルの赤字）

○21:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数

○21:00 ◎ 9月ブラジル小売売上高指数（予想：前年同月比8.6%）

○21:00 ◇ 9月メキシコ鉱工業生産（季調済、予想：前月比0.8%）

○22:00 ◎ ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁、講演

○米国（ベテランズデー）、債券市場が休場

○ポーランド（独立記念日）、カナダ（リメンバランス・デー）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

10日 07:10 カプラン米ダラス連銀総裁
「リスクは新型コロナウイルスの感染拡大が、病院のシステムを圧倒することでロックダウンに導くことだ」
「今後 FRB は数年間ゼロ金利を保つ必要があるかもしれない」
「21年に入ると成長は加速する見通し」
「今年は-2.5%成長が基本シナリオ、2021年は+3.5%成長の見通し」

10日 07:44 メスター米クリーブランド連銀総裁
「米連邦準備理事会(FRB)は更に金融緩和策としてまだ提供できることがある」

10日 10:43 加藤官房長官
「来年度予算と3次補正で切れ目なく経済再生を図っていく」
「経済対策規模、これから議論」

10日 11:27 麻生財務相
「3次補正予算の規模はまだ言える状況にない」

10日 18:00 エルドアン・トルコ大統領
「金利や為替、インフレが足を引っ張っている」
「トルコの失業率は低下し続けている」

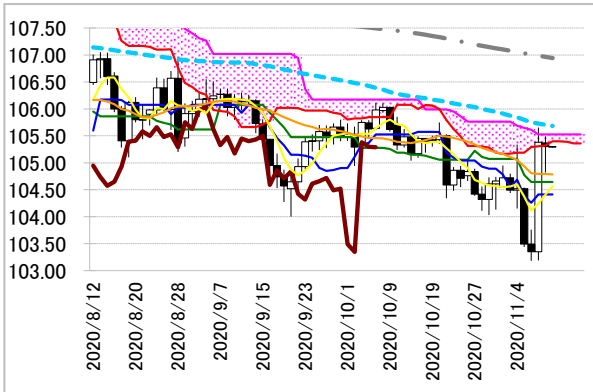
11日 00:32 ローゼングレン米ボストン連銀総裁
「先行き経済はコロナ感染の抑制次第」
「金融の不均衡の拡大を阻止することが重要」
「引き続き金融の脆弱性の領域を見ている」
「マネーマーケットファンドはコロナ危機で再び失敗した」
「短期金融市場の状況は非常に不安定」

11日 05:06 バイデン米民主党大統領候補
「感謝祭前の一部閣僚の発表を望む」
「経済対策は今必要」

11日 07:05 ローゼングレン米ボストン連銀総裁
「財政政策は零細企業や失業者、また州・地方自治体を支援できる」

※時間は日本時間

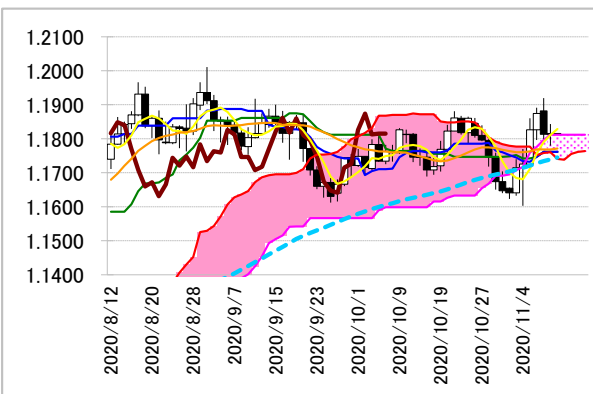
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円=105円半ばの日足一目・雲を睨んだ展開に>

下影小陰線引け。9日の大幅上昇後の反動で売りが先行も104円後半では下げ止まり、105円半ばまで反発した。昨日は104.80円に位置していた21日線がサポートとして機能。一方で上サイドでは、狭いながらも日足一目均衡表・雲が抵抗帯として働いた。本日も一目・雲を睨みながらの展開となりそうだ。その上に位置し、一昨日に頭を抑えられた90日線を超えると上昇に弾みがつくか。

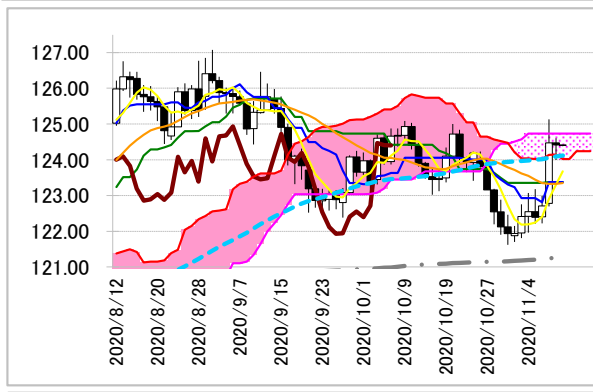
レジスタンス1	105.68(90日移動平均線)
前日終値	105.30
サポート1	104.79(21日移動平均線)
サポート2	104.42(日足一目均衡表・転換線)



<ユーロドル=基準線・転換線が支持水準のまま>

小陽線引け。1.17ドル台にさし込む場面はあったが、日足一目均衡表・基準線や転換線には届かず反発。結局、一目・雲の上限を中心に上下することになった。短期的な趨勢を示す5日線は1.18ドル前半、21日線は1.17ドル後半で上向きであり、上方向へのバイアスは残る。本日も1.1760ドル台で並ぶ一目・基準線や転換線が支持水準として意識されるか。

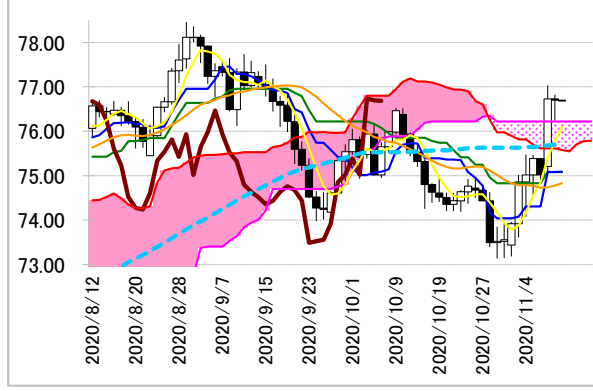
レジスタンス1	1.1843(11/10高値)
前日終値	1.1815
サポート1	1.1762(日足一目均衡表・基準線と転換線)



<ユーロ円=一目・雲の中で方向性を探る展開に>

小陰線引け。売り戻しが先行し、日足一目均衡表・雲の下限を下回り、124円を一瞬割り込んだ。もっとも下落一巡後は124円台の一目・雲の中で推移。しばらくは雲の中で方向性を探る展開が予想されるが、121円台の安値を記録した10月30日から本日が(一目基本数値の単純1)9日目にあたり、下値からの上昇局面が一服する可能性はある。雲の下限を再度割り込み、昨日安値も下回るようであれば、下値余地が広がるかもしれない。

レジスタンス1	124.73(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	124.41
サポート1	123.99(11/10安値)



<豪ドル円=一目・雲の上限が支持水準>

下影小陰線引け。9日急騰後の調整売りが先行するも、76円前半に位置する日足一目均衡表・雲の上限の手前では下げ止まった。日足一目・転換線は基準線と同値だが、一目・遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けたことで買いシグナルが優勢。昨日の下ヒゲを頼りに買い目線が臨みたい。ただ、一目・雲の中まで弱含み76円を割り込むようならば、ロングは手仕舞い。

レジスタンス1	77.04(11/9高値)
前日終値	76.70
サポート1	76.22(日足一目均衡表・雲の上限)

